

教科(科目)	水産(船舶運用)	単位数	3単位	学年(コース)	3学年(海洋技術) コース
使用教科書	文部科学省著作 海文堂出版株式会社発行 『船舶運用』				
副教材等	なし				

1 学習目標

船舶を安全かつ適切に運用するために必要な知識と技術を習得させ、実際に漁業生産など海上業務に活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①漁船を中心とした船舶の概要と各種設備、船務、操船、船内の安全と衛生及び船員に関する法規等、船舶を安全かつ適切に運用するために必要な知識と技術を習得させる。
- ②船舶の安全運航と実際に漁業生産など海上業務に活用できる能力と態度を育成する。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	○船舶の概要	○船舶の意義 ○漁船の意義	○船舶・漁船が漁業生産に果たす意義や役割等及び漁船の定義や従業制限についても理解する。	12	○授業への取組 ○提出物の内容および期限順守
5	○船舶の設備	○操船・機関・通信設備	○船舶の分類、船体各部の名称と構造、主要寸法やトン数等について理解する。		○定期考査
6	(30日乗船実習)	○操船・機関・通信設備	○一般的な船舶の設備・属具の概要を扱い、それらの設備等の使用上の注意、日常の保安等に必要な知識と技術を習得する。		○確認テスト
6		○係船・荷役設備	○係船設備・荷役設備等の名称と役割、使用方法等について理解する。	10	
		○船用品	○ロープ類、滑車及びテークルについて基礎的な知識と技術を習得する。		
		○安全・衛生設備	○安全設備・衛生設備について基礎的な知識と技術を習得する。		
		○漁業設備	○漁船に特有な漁業設備、冷凍・冷蔵設備について基礎的な知識と技術を習得する。		
	(1学期期末考査)	○冷凍・冷蔵設備			
7					
9	○船務	○乗組員の編成と職務	○乗組員の編成と職務、航海日誌の概要について理解する。	28	
		○船体の整備	○船体各部の日常の保存手入れ、塗装作業等についての基礎的な知識と技術を習得する。		

10	(2学期中間考査)	○ドックと検査 ○通信 ○保安の確保	○ドックの種類、入行きよ準備、ドック中の主な作業と検査の概要について基礎的な知識と技術を習得する。 ○船舶職員として必要な海上特殊無線や旗りゅう信号等の基礎的な知識と技術を習得する。 船舶保安統括者と船舶保安管理者の任務の概要などについて理解する。	
11	○操船	○操船の基本 ○応用操船 ○荒天運用 ○海難と応急	○操船の概要及び船の安定と復原性、船体に働く力などの操船の基本を習得する。 ○出入港、錨の利用法や離岸法などの操船技術及び、荒天時の操船・錨泊法の基本的な知識と技術を習得する。 ○海難の防止対策と応急対処等について基本的な基本的事項を理解する。	26
12	(2学期期末考査)	○船内の安全と衛生 ○船舶・船員・海洋関係法規	○船内環境・衛生への配慮の必要性と災害防止、応急処置、船内消毒等船内の安全と衛生について理解する。 ○船舶安全法等船舶の安全に関する法規、船員法等乗組員に関する法規、海洋汚染防止法等海洋に関する法規について、関連する国際公法も含めて基本的な事項を取り扱い、船舶・船員・海洋関係法規について理解する。	20
	(学年末考査)			

計 96 時間(55分授業)

4 課題・提出物等

○各单元ごとに課題等の提出を指示することがあります。

5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○船体の整備や船舶の運用及び関係法規等について関心を持ち、学習を通して意欲的に知ろうとしている。 ○海事従事者の一員とし	○作業に必要な保護具や作業手順、安全対策について関係規則から正しく判断することができる。 ○外力の影響と船舶の	○実習船等を使用した実験・実習等でその時の状況に応じた対応ができる。 ○非常事態発生時の解決にむけて、正しい過	○船舶を安全かつ適切に運航させるために必要な基礎知識を十分理解している。 ○船舶・船員・海洋関係法規について、基礎

て望ましい態度や心構えを身に付けようとしている。	状態などから、的確な操船方法を適切に判断することができる。	程を経て、問題を解決する的確な結果を導き出すことができる。	的な知識を持ち、近年の動向及び課題について理解している。
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業への取組状況(授業態度、出席状況、発表、学習活動への参加状況など) ○課題等の提出物(内容および期限の順守) ○定期考査 ○確認テスト ○自己評価 <p>などから、総合的に判断します。</p>			

6 担当者からの一言

五級海技士から四海技士の資格を取る上で必要な事を学びます。どれも船の運航上重要なものばかりなのでしっかり勉強してください。

2年生で体験した乗船実習等と関連づけながら、実際に船内実務で活用できる能力と態度を身に付けるように努力しましょう。

(担当：久保田 和平)